

令和2年度 助産師職能委員会 活動報告

■委員名

委員長：末神純子

副委員長：小塩史子

委員：東森優子・松浦美恵・吉原理恵・大野美香・山下亜沙子・石岡伸子・
岩本綾子・入江三佳・総毛薫・峯岸美恵子・牛越幸子

■活動目標

1. 助産師が自律して活動できるよう、助産実践能力強化に向けて取り組む。
2. 会員と交流を持ち、会員の抱える問題・課題を明らかにし、対応策を検討する。
3. 助産師間、および他職種との連携を強化する。
4. 子育て世代包括ケアシステム推進に向けた課題を明らかにする。

■委員会活動状況と検討内容

回	開催日	出席数	内容
1	令和2年4月	中止	
2	令和2年5月	中止	
3	令和2年7月4日	12名	・委員会開催日決定 ・産後ケア実態調査について ・新人看護職員卒後臨床研修事業について
4	令和2年8月	中止	
5	令和2年9月	中止	
6	令和2年10月16日	12名	・理事会報告 ・地区助産師職能合同研修会について ・産後ケア事業調査についての検討 ・助産師職能交流会について検討 ・今年度活動中間報告のまとめ
7	令和2年11月20日	11名	・理事会報告 ・地区別職能委員長会報告 ・近畿地区助産師職能合同研修会の準備 ・兵庫県内の周産期施設におけるCOVID-19対応の実態調査の計画書作成・進め方検討
8	令和2年12月18日 (Web 併用)	12名	・理事会報告 ・保健師助産師看護師職能集会について ・近畿地区助産師職能合同研修会報告 ・兵庫県内の周産期施設におけるCOVID-19対応の実態調査の計画書作成 ・今年度活動報告まとめ ・次年度活動計画について意見交換

9	令和3年1月8日 (Web)	12名	・令和3年度近畿地区助産師職能合同研修会計画 ・兵庫県内の周産期施設におけるCOVID-19対応の実態調査まとめ ・その他協議事項
10	令和3年2月19日 (Web 併用)	12名	・理事会報告 ・都道府県看護協会母子のための地域包括ケアシステム推進会議報告 ・次年度の助産師資質向上研修、新人助産師研修の講師検討 ・兵庫県内の周産期施設におけるCOVID-19対応の実態調査まとめ
11	令和3年3月19日 (Web 併用)	12名	・理事会報告 ・全国助産師職能委員長会議報告 ・令和3年度3職能合同交流会について ・次年度の活動担当者決定 ・兵庫県内の周産期施設におけるCOVID-19対応の実態調査まとめ

■活動内容	1. 保健師助産師看護師合同職能集会 (COVID-19の影響で中止)
	目 時：令和2年6月18日 9:30～12:00 基調講演 テ ー マ：働き方改革～いきいき働き続けるために～ 講 師：さかうえ社会保険労務士事務所 所長 坂上和芳 氏
	2. 保健師助産師看護師・支部合同交流会 (COVID-19の影響で中止)
	目 時：令和2年9月26日 13:30～16:30 場 所：兵庫県看護協会会館 内 容：看護職間の連携・協働のこれから～地域での暮らしを支えるために～ 講 演：1) 兵庫県の保健師活動と役割について 2) 診療看護師 (NP) としての地域での活動で見えてきたもの ～看護の力で重症化予防～ 講 師：糖尿病ケアサポートセンターオフィス代表 中山法子 氏 3) 病院・訪問看護ステーションとの連携強化について
	3. 産後ケア実態調査
	10月：コロナの現状を踏まえ、産後ケア事業の調査を周産期におけるコロナ対応の実態調査に変更することを決定し、11月から調査、まとめ、発信していく予定。
	4. 近畿地区助産師職能合同研修会
	日時：令和2年12月5日 15:00～17:00 テーマ：「助産師に関係する法改正を理解し、妊産婦へのケアにつなげよう！」 対象：近畿地区助産師職能委員

	5. 助産師職能交流会 (COVID-19 の影響で中止) 日——時：令和3年1月21日—9：30～12：30 場——所：兵庫県看護協会会館 対 象 者：助産師30名 テーマ：「産後ケア事業について～開設している施設から話を聞こう！～」(仮) 情報提供：4名(市立加西病院、明石医療センター、姫路赤十字病院、 なでしこレディースホスピタル) 6. 兵庫県看護協会主催 資質向上研修支援 助産師関連研修 1回支援 新人助産師研修 1回2名支援
■活動の評価	1. 助産師が自律して活動できるよう、助産実践能力強化に向けて取り組む。 今年度は助産師資質向上研修への支援は研修自体の開催も少なかったが、支援できる限り行うことができた。 2. 会員と交流を持ち、会員の抱える問題・課題を明らかにし対応策を検討する。 交流会を開催予定であるが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に合わせて内容・方法は検討してゆく。 3. 助産師間、および他職種との連携を強化する。 兵庫県合同職能研修は新型コロナウイルス感染症の状況で開催できなかったが、令和3年総会時の合同職能講演会は開催予定。また、地区別職能交流会や令和3年に助産師職能交流会が開催され、職能委員全員参加できた。近畿地区の他の職能委員とコロナ禍における情報共有とその中での母子への支援について話し合うことはでき、連携の強化につなげることができた。 4. 子育て世代包括ケアシステム推進に向けた課題を明らかにする。 今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を鑑み、集合での会議や集会を中止せざるを得ない状況だった。助産師職能委員会も7月の初会以降メール会議をすすめ、10月・11月・12月・1月・2月に5回の集合もしくはWeb併用で委員会を開催することができた。予定されていた産後ケア事業の実態調査の文献収集や読み合わせを行い準備をすすめていたが、会議のなかで、各施設ごとの新型コロナウイルス感染症への対応が違うこと、周産期の新型コロナウイルス感染症に関する情報が少ないことがわかり、新型コロナウイルス感染症に関する周産期対応について情報共有できるようにまとめることに変更し、現在集計中。今年度中を目標にまとめ、兵庫県看護協会HPに掲載予定。
■今後の課題	・新型コロナウイルス感染症によって大きく変化した周産期周辺の情報収集と施設間の情報共有 ・子育て包括ケアシステムの現状把握と推進
■看護協会への提言・要望	・新型コロナウイルス感染症に関する各都道府県の周産期施設の現状と工夫についての発信 ・母子の地域包括ケアシステムの推進 ・アドバンス助産師の効果的な活用と診療報酬への反映